2Ba-1

経済開発の中での食料の生産と消費におけるジェンダー関係の変動
―第1報　食料の生産と消費プロセスへのＷＩＤ視点の導入―

昭和女大（院）　○梶謡子　　昭和女大・女文研　伊藤セツ

〔目的〕　女性と食料の関わりは、その生産と消費のプロセスにおいて男性より密接であるといわれてきた。食料の生産は、経済開発にともなって農業から食品加工業へ、その消費は家事労働から外部化された産業へと重点を移す。その経済開発が、女性の食料の生産と消費の関わりにどのような影響を与えるかを、家政学・生活科学にＷＩＤ(Women in Development)視点を導入し、ジェンダー関係の変動を実証することによって明らかにする。

〔方法〕　IFHE機関誌、開発と女性あるいは、女性と食料に関わる先行研究・文献の検索、労働力・生活時間統計の細分類をFood Cycleの各段階の区分にあてはめ、考察する。

〔結果〕　家政学・生活科学にＷＩＤ視点を導入することは、1980年代からの試みであった。食料の生産と消費過程をジェンダー関係の変化からみるという視点は、家政学・生活科学研究に新しい切り口を与える。左図は食料に関する人間の活動を体系化したものであるが、この全過程で女性は様々な側面から重要な役割を果たしている。しかし、社会的背景を伴う階級、ジェンダー関係から、今なお女性の経済活動・家事労働に対する評価は低く、不払い労働・インフォーマルな労働が多い。こうした問題の研究は家政学・生活科学の今後の重大な課題の一つである。

Food Cycleの区分

生産	農業(畜産を含む)、漁業	Paid Work
↓	食品・飲料製造業	(Unpaid work)
流通	卸小売業、飲食店、家事サービス業	Paid Work
↓	ニューワーク　(Unpaid Work :Informal)	
消費	家事労働(買い物、貯蔵、調理・配膳、後始末)	Unpaid work
↓	(燃料・飲料の確保)	(Paid Work)
(廃棄)	(生ごみの処理など)	